

**[年度] 平成23年度和歌山県農林水産総合技術センター研究成果情報**

**[成果情報名] ヒノキ間伐材を活用した原木ナメコ栽培における適性種菌品種の特定**

**[要約]** ヒノキ間伐材を活用した原木ナメコ栽培では、サクラ原木に比べ発生量が少ないことや種菌品種により適性が異なることが課題であったが、市販されている種菌11品種による発生量調査の結果「北研N201号」を本県のヒノキ原木に適した種菌品種として特定した。

**[キーワード]** ヒノキ、間伐材、ナメコ、原木栽培、北研N201号

**[担当機関名]** 林業試験場 特用林産部 **[連絡先]** 0739-47-2468

**[部会名]** 林業・木材部会 **[分類]** 指導

**[背景・ねらい]**

これまでヒノキ間伐材を活用した原木ナメコ栽培技術を検討してきたが、サクラ原木に比べ発生量が少ないことや種菌品種により適性が異なり収量差が大きいことが課題であった。そこで、収量が多く安定生産が見込め、本県のヒノキ原木栽培に適した種菌品種を特定するため、市販されている原木栽培用の駒菌11品種について発生量調査を行った。

**[成果の内容・特徴]**

1. 3年間の調査の結果、「北研N201号」が原木（直径10cm換算）1本当たり86.8個、334.3gの最大発生となり他品種との有意差が認められた。また、1・2年目ともに安定した収量となったことから当品種を本県のヒノキ原木栽培に適したナメコ種菌品種として特定した（表1、図1）。
2. 植菌した後、8カ月後の11月には本格的な発生が確認された。植菌1年目での発生はこれまでの試験で初めて得られた結果であり、サクラ等の広葉樹原木にはない特徴となった。
3. 3年目の発生は僅かで、ほだ木の有効寿命は2年であるが、原木確保が容易で軽量、早期収穫が可能である利点を活かし、隔年に植菌すれば毎年継続して安定生産が見込める。
4. 過去に実施した「北研N201号」のサクラ原木1本当たりの収量 565gに対するヒノキ原木収量割合は59%となった。

**[成果の活用面・留意点]**

- ・本県の温暖な気候に適合すると思われる早生品種（高温性菌）を主に使用した結果である。
- ・ヒノキ原木では伐採直後の乾燥していない原木への植菌が菌回りが速く適している。
- ・ナメコは湿潤な環境を好むため、ほだ木の半分を埋め込む「接地伏せ」が適している。
- ・ほだ木の乾燥防止とナメコへの落ち葉等の付着を防ぐため、ほだ木を遮光ネット等で被覆すると効果的である。

[具体的データ]

表1 ヒノキ原木ナメコの種菌品種別発生量調査（平成21～23年度）

種菌 No.	種菌品種名	発生型	原木1本当たりの平均収穫量(直径10cm換算値)								備考	
			原木 供試数 (本)	H21(植菌1年目)		H22(植菌2年目)		H23(植菌3年目)		3年間の合計		
				個数 (個)	重量 (g)	個数 (個)	重量 (g)	個数 (個)	重量 (g)	個数 (個)		重量 (g)
1	東北 N109号	早生	10	16.0	48.76	10.1	31.95	0.4	0.9	26.4 ± 19.8	81.6 ± 67.8	b**
2	加川 KM-88号	早生	10	8.9	56.36	21.4	107.72	2.4	12.8	32.7 ± 22.5	176.8 ± 128.4	
3	河村 63号	早生	10	13.3	45.05	3.8	12.27	0.2	0.4	17.3 ± 12.0	57.8 ± 46.2	b** d*
4	大貫 N2号	早生	10	8.8	25.97	17.1	45.41	2.0	3.1	27.9 ± 34.0	74.5 ± 81.9	b**
5	北研 N201号	早生	10	40.3	148.63	41.0	161.04	5.6	24.6	86.8 ± 48.7	334.3 ± 166.6	a**
6	日農 953	早生	10	32.4	98.25	7.8	16.48	0.0	0.0	40.2 ± 30.8	114.7 ± 89.8	b**
7	河村 早生	早生	10	30.7	103.62	24.7	58.71	2.0	3.7	57.4 ± 27.0	166.1 ± 79.5	
8	菌興 早生	早生	10	20.0	87.47	19.9	111.13	1.7	10.2	41.6 ± 29.2	208.8 ± 150.0	
9	森 3号	早生	10	15.1	62.28	24.1	57.04	0.5	1.1	39.6 ± 37.0	120.4 ± 143.8	b**
10	森 2号	中生	10	40.1	142.68	31.9	87.79	1.1	2.97	73.0 ± 32.3	233.4 ± 92.3	c*
11	森 1号	晩生	10	27.0	88.21	36.45	123.67	1.3	6.33	64.7 ± 39.2	218.2 ± 119.6	

※原木伐採:H21.3.2 植菌:H21.3.5 原木基準:直径10cm長さ1.0m 植菌駒数:30個/原木 原木1本当たりの平均収穫量は、発生しなかった原木も含めた10本の平均値  
 ※同列異符号間で有意差あり (\*:1%水準で有意 \*\*:5%水準で有意)

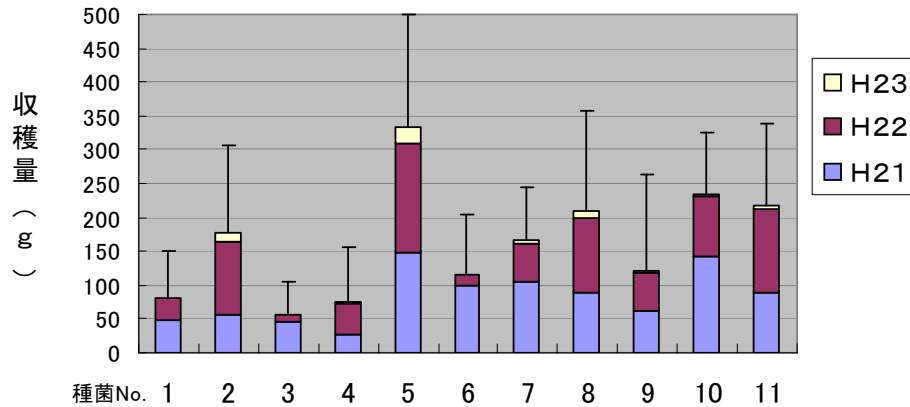


図1 ヒノキ原木ナメコの種菌品種別発生量



図2 発生状況



図3 北研N201号

[その他]

研究課題名：山村地域の遊休地や里山を利用した山菜やきのこ類等活用技術開発

予算区分：県単

研究期間：平成20～24年度

研究担当者：坂口和昭、秦野光章

発表論文等：ヒノキ間伐材によるナメコ栽培技術試験

和林試業務報告 No.66・2008、No.67・2009、No.68・2010

H P 掲載の可否：可